

「愛情に理由はあるのか？」

2015年5月16日(土)

会場：Cafe Table Terrace (表参道)

参加：12名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・「愛情に理由はあるのか？」を問いとして新規参加者4名を含む総勢12名で対話しました。主に、何が原因で惹かれるのか、パートナーとの間での愛情の確信および相手の感情や行為の与える影響について考え、静かに語り合いました。

2. 対話：

(0) 問いについて

- ・人は、様々な対象（パートナー間で、親子間で、モノやコトへ）に愛情を抱くが、そのときに何らかの理由があるのか、あるとすればそれは何かという問いを挙げ、考えたいと提起した。

(1) 前提の確認

- ・「愛する」と「好きになる」は違うのではないか。どう違うかは良く分からないが、「愛する」は「好きになる度合いが高い」状態であり、「大好きになる」に近いと思う。
- ・「理由」とは何か。人が説明できる「理由」と事象が発生する「原因」は違う。説明できる理由はなくても、その原因がないということを必ずしも意味しない。理由を説明できないときでも、何らかの原因はあると思う。理由を説明できないとき、人はそれを偶然と呼ぶのではないか。

(2) 愛情を持つ事例

- ・家が大好き。なぜその家が好きかと問われれば、その家や街に纏わる思い出が理由かもしれない。
- ・飼っている犬が大好き。ペットショップで見たときから、その犬の可愛さや守ってあげないといけないという感情があり、そのために大好きになったのだと思う。
- では、なぜ他にも同じような選択肢がある家や犬の中で、それだけが自分にとって特別に愛情の対象となるのか。説明できそうか？

(3) 本能や経験から作られる直観かそれとも絶対的なタイマーか

- ・例えば、色が赤、黄、青、黒、他と異なる数個のお皿を考える。この中から、なぜか赤いお皿を大好きになったとすれば、理由はその人の経験に、赤色に関わる良い印象があり、その経験が原因になったということではないか。
- ・そうではない。愛情が芽生えるということは、数ある候補の中からどれがより良いかという比較考量による選択の結果ではなく、もっと絶対的に内面から生まれるものではないか。赤に愛着を持つときは、他のものが目に入らず、他よりも云々等と考えることなしに、絶対的にそれでないとダメになる。
- ・絶対的に内側から生まれるというメカニズムを考える。例えば、動物の中で生まれて最初に見る対象を親と認識するメカニズムに似て、人の本能の中にはタイマーがセットされていて、そのタイマーが起動したときに愛情の素が弾け、接触した対象に特別な愛情を向けるということかもしれない。
- ・確かに、人が何かの対象に惹かれるときには、そこにその人の本能や経験から来る直観が働いていると思う。その直感を形成する究極の源流は、愛情の原型を形作る母子間の経験にあると思う。

(4) 愛情の時間的な考察

- ・その対象と出会った瞬間にすぐに愛情があるという考え方には違和感がある。出会った瞬間に何らかの愛情が全くないとは考えないが、愛情はもっと時間をかけて育むという過程が必要なのではないか。
- 愛情が時間を経ることで育まれるという現象は、先に事例が出た思い出が理由となって愛着が生まれることを踏まればその通りと思うが、今回は、そのきっかけに着目してなぜその対象に惹かれたのかを考えてみたいと進行から説明して対話を進めた。

(5) 愛情の発生と成長

- ・今までの(3)と(4)で対話した内容をまとめると：
愛情の芽生えは、その人の持つ本能や経験から作られる直観が働くか、あるいは、本能に組み込まれたタイマーのようなものが働くときである。芽生えた後は、その対象と時間を経過しながら長く付き合うことができるが、その関係性は続き、愛情は育まれて大きくなっていく。
- 本能や経験から来る直観から愛情の芽生えが決まるという考え方は決定論に帰着してしまうはずだが、必ずしもそれだけの要因ではないように思う。

(6) パートナーとの愛情の確信と持続

- ・パートナーとの間において愛情が生まれたとき、当事者はお互いにその愛情に確信を持つことがある。そのとき、純粹に一人の個人の内面だけを考えれば、相手の内面とは独立して愛情に確信を持つことができる。一方で、結婚の判断は相手の同意が当然必要なので、個人の内面における愛情の確信と当事者双方の結婚の判断は同期しない。

(7) パートナーとの愛情における相手の感情や行為の影響

- ・パートナーとの間における愛情では、その相手の感情や行為に左右されるのか。愛が生成されると相手の感情や行為には左右されず、自分の内面だけで育まれると思う。
- ・ストーリー側の心理（これを愛情と呼んで良ければ）を考えると全く影響を受けない場合がある。
- そうだろうか。ストーリー側も被害者の心理に多少の影響を受けていると思う。そう考えると、影響を受ける面と受けない面の2層あるのではないか。
- 初恋の後にどちらかが転校して絶交となった状態や東日本大震災のときの遺族を考えると、あるときに突然関係性を絶たれるため、その後は自分の内面だけの世界となり、愛情を持ち続ける場合がある。
- そういう場合でも、自分の思い出の中で対話のシミュレーションをしているはずで、それは過去の相手の言動の記憶から影響を受けていると考えるべきではないか。
- 愛情には臨界点があってそれを超えると、相互の関係性も関係なくなるということかもしれない。

3. まとめ：

- ・愛情の原因として提起された内面に仕込まれたタイマー発露説は、問いの設定者としては意外で発見であった。
- ・「なぜ結婚するのか？」という問いが最終盤に提起されたが時間切れとなった。また機会を設け、対話したい。